第２３回 製品安全点検日セミナー

製品の安全な使い方

In 広島市まちづくり市民交流プラザ

「湯たんぽ」の事故

湯たんぽの事故

平成8年度から平成20年度(12月22日現在)までに

◆直接加熱することが可能な金属製湯たんぽの中の水を口金(フタ)をしたまま加熱して発生した事故：

7件

◆湯たんぽを使用して低温やけどを負った事故:

15件

NITE事故情報データより
(重大製品事故を含む）

湯たんぽの破裂事故

【事故事例】（平成19年12月　兵庫県）

　金属製湯たんぽのを口金（フタ）を外さずに電磁調理器（IHこんろ）で温めたため、内圧の上昇に絶えられなくなった湯たんぽが破裂して壁にキズができた。

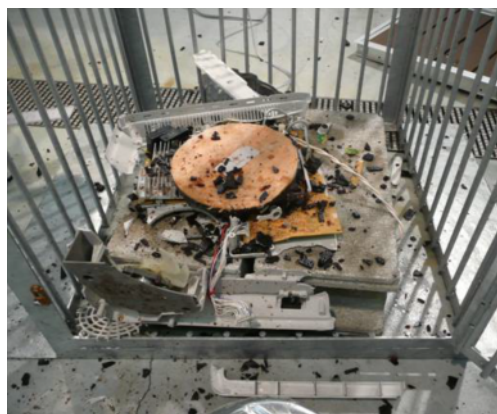
【事故事例】（平成20年2月　千葉県）

　湯たんぽの口金（フタ）を軽く閉めたままIHこんろで温めたところ、お湯が噴きこぼれてきたために加熱を止めて口金具を開けたところ、お湯が噴き出して顔と腕にやけどを負った。

湯たんぽの破裂事故再現実験

金属製湯たんぽをIHこんろで加熱開始

加熱開始後、膨らむ金属製湯たんぽ

破裂した金属製湯たんぽと破損したIHこんろ

破損したIHこんろ

破裂した金属製湯たんぽ

事故防止のポイント

次の事項を必ず守ってください。

◆ 金属製湯たんぽの中の水をこんろ等で直接加熱する場合は、必ず口金(フタ)を外して加熱してください。

◆ 注意表示や取扱説明書を良く読み、正しい方法で使用してください。

湯たんぽによる低温やけど

【事故事例】（平成19年1月 愛知県）

湯たんぽを足下に置き就寝したところ、就寝前は接触していなかったものの、就寝中に接触してしまい、そのまま長時間接触したため、左足に低温火傷を負った。

湯たんぽによる低温やけど

低温熱傷(moderate temperature burn , cold burn)とは、
短時間の接触では問題とならない程度の温度が、接触部に長時間作用することによって生じる熱傷のことをいう。

低温熱傷(やけど)を発症するしくみ

◆熱源との接触時間と局所圧迫が相加的作用

◆普通の状態では問題とならないような温度であっても、長時間圧着されていると生じる。

◆すなわち、熱源と接触する皮膚の血流が圧迫によって防げられると、皮膚の血流による熱放散が妨げられ、蓄積された熱によって組織が損傷し、熱傷を生じる。

44℃ → 6時間以上で発生
44～51℃ → 1度上昇するごとに時間は半減
51℃以上 → 短時間で熱傷

湯たんぽなどによる低温やけど

睡眠中アンカを長時間
あてていたことによって
発生。熱傷面積は小さ
いが、深いⅢ度熱傷。

湯たんぽによって睡眠
中に生じたⅢ度熱傷。
患者は糖尿病で末梢神
経知覚障害があり。

事故防止のポイント

①電気あんか、電気カーペット、電気敷毛布、湯たんぽなど、直接、身体に接触しないように使用してください。

②電気あんか、湯たんぽなど、布などを巻いて伝わる熱を少なくして使用してください。

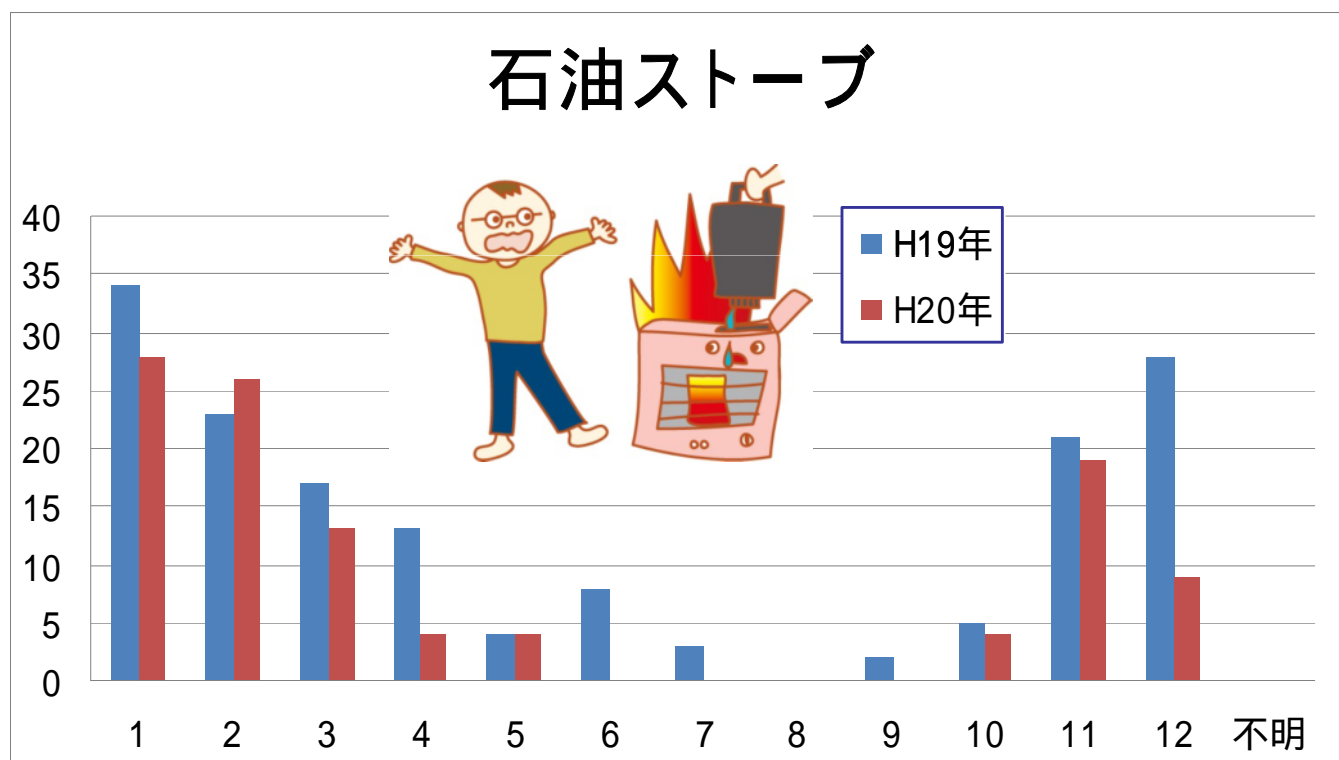
③長時間、同じ部位に当てて使用しないでください。

④就寝するときは特に注意してください。

⑤痛みや違和感を感じたときは直ちに使用を中止してください。

石油ストーブによる火災事故

石油ストーブによる火災事故

平成19年、平成20年における石油ストーブが関係した火災事故情報の月別件数

NITE事故情報データより

石油ストーブによる火災事故

【事故事例】（平成20年3月　山形県）
　石油ストーブの上方に干していた洗濯物がストーブの上に落下し、木造平屋住宅、約134平方メートルを全焼した。

次の事項を必ず守ってください。

石油ストーブの上部周辺で洗濯物を乾燥させないでください。

洗濯物は湿っている時は落ちにくくても、乾くと軽くなって、熱にあおられて落下し、火災につながります。

石油ストーブによる火災事故

【事故事例】（平成20年2月　岡山県）

　石油ストーブを消火せずにカートリッジタンクを本体にセットしようとした際、フタの締め付けが不十分であったため、漏れた灯油にストーブの火が引火し、木造2階建て住宅、約24平方メートルを焼いた。

次の事項を必ず守ってください。

◆給油は必ずストーブの火を消してから行ってください。

◆カートリッジタンクのふたは確実に締まったかどうか確認してください。

石油ストーブによる火災事故

【事故事例】（平成20年2月　石川県）
　石油ストーブに誤ってガソリンを給油したため、異常燃焼を起こし、2階建て住宅の2階部分を焼いた。

次の事項を必ず守ってください。

石油ストーブには、絶対にガソリンを給油しないでください。

灯油と間違ってガソリンを給油すると火災の原因になります。ガソリンを保管している場合は、絶対に取り違わないよう注意しましょう。

電気洗濯機による指切断事故

電気洗濯機による重傷事故

平成8年度から平成20年度(12月22日現在)までに電気洗濯機の回転が止まっていない脱水槽の中に手を入れ、絡まった洗濯物で指を切断するなどの重傷を負った事故：

16 件

NITE事故情報データより
(重大製品事故を含む)

nite

電気洗濯機による重傷事故事例

【事故事例1】（平成18年7月　大阪府）
　長期間の使用(9年6か月)でブレーキライニングが摩耗し、脱水槽の停止時間が40秒以上かかる故障状態の電気洗濯機で、脱水中に運転音が静かになったので上ぶたを開けて手を入れたところ、洗濯物が指に絡みつき、右手薬指にけがをした。

【事故事例2】（平成20年7月　千葉県）
　洗濯終了のブザーが鳴ったので、電気洗濯機の蓋を開け、脱水槽が完全に停止していない状態で、右手を入れたところ、指が衣類に巻き込まれ、右手薬指を切断した。（現在、調査中）　（METI 重大製品事故公表事例より）

電気洗濯機の指巻き込まれ事故再現実験

回転の止まっていない脱水槽に手マネキンを
入れた際にマネキンの指に巻き付く洗濯物

事故防止のチェックポイント

次の事項を必ず守ってください。

- ◆ 脱水槽が完全に止まるまでは中の洗濯物には絶対に手を触れないでください。洗濯物が手に巻き付いて大けがの危険があります。
- ◆ 運転中の電気洗濯機の下には絶対に手を入れないでください。電気洗濯機の下にある回転機などで大けがをする危険があります。

また、次の場合は販売店等に修理の相談をしてください。

- □ 脱水槽が止まりにくい
- □ 脱水中、ふたを開けてから15秒以内に脱水槽が止まらない